「電気関係学会東海支部連合大会」特集号によせて

キーワード

電子、情報、システム、東海支部連合大会

大 熊 繁

名古屋大学大学院 工学研究科

1. はじめに

東海地区では、昨年にひきつづき、東海地区の電気学会C部門に関係する研究活動を広く紹介するとともに電気学会C部門誌の発展に寄与することを目的として、「電気関係学会東海支部連合大会」特集を企画した。今年度も電気学会、電子情報通信学会、照明学会、テレビジョン学会、日本音響学会、ならびに情報処理学会の各支部の共催により、名城大学理工学部において東海支部連合大会が開催され、そのシンポジウムと一般講演の中から、優秀な発表を論文としてまとめていただき特集号とした。本稿では、今年度の電気関係学会東海支部連合大会の概要を紹介し、本特集号編集の経緯について述べる。

2. 平成7年度電気関係学会東海支部連合大会

平成7年度電気関係学会東海支部連合大会（以下、連合大会と呼ぶ）は、平成7年9月20日（水）、21日（木）の両日、名城大学理工学部で開催された。メインのイベントである特別講演は、題目が「将軍吉宗と尾張宗春」で、講演者は徳川美術館学芸部の小池富雄氏であった。NHKで放映され話題になっていたテーマであり、多くの聴衆が講演に聴きいていた。シンポジウムは6テーマからなり、1. 用途志向型電動機の開発の現状、2. 明日のエネルギー・燃料電池発電—最新技術と将来展望—、3. 自律ロボット・進化ロボット、4. プラズマプロセスによる薄膜作製と物性、5. 情報で結ぶ人と乗り物、6. バーチャル・リアリティー基礎技術と応用の動向—であった。全体で36件の講演が行われた。一般講演は26部門に分かれて836件の講演が行われた。

懇親会は、9月20日（水）の18時から名城大学第二食堂で開催された。135名の参加者があり、通常は異なる学会に所属しているため会うことの少ない研究者、技術者が一堂に会し、盛会であった。

例年通り、若手研究者の研究意欲を鼓舞するために、奨励賞が20名に贈呈され、電気学会優秀論文発表賞Bが16名に贈呈された。

大会参加延べ人数は、1,047名であり、昨年度に比べて122名増加した。講演件数も、昨年の801件から35件増加し、836件になったことを考え合わせると、連合大会は、東海地区における発表の場として、ますます発展しているといえる。

3. 特集号編修の経緯

昨年と同様に、電気学会東海支部のC部門査読委員と、D部門と電子情報通信学会のなかで関係の深い査読委員とから、下記の小委員会を組織した。

小委員会委員：

河野明広(名古屋大)、野村龍男(静岡理工科大)、宮崎保光(豊橋技科大)、細江繁幸(名古屋大)、植田明照(愛知工大)、大熊 繁(名古屋大)、松井信行(名古屋工大)、斎藤制海(豊橋技科大)、藤原 修(名古屋工大)

小委員会において議論し、平成7年度連合大会のシンポジウムと一般講演の中から、電子・情報・システムに関する優秀な論文をまとめていただき、特集論文として掲載することとした。これにより東海地区のC部門に関係する活動を紹介するとともにC部門誌の発展に寄与することを目的とする。

平成7年11月初旬には、C部門に関係の深いシンポジウム・一般講演の発表者に論文投稿の勧誘をするとともに、特集号論文募集の会告を学会誌(116巻1号、平成8年1月)に掲載した。その結果、20件(昨年度は25件)の論文が投稿された。会告時期を早めたにもかかわらず、投稿論文数が減少したのは、投稿の勧誘が十分ではなかったことが原因であると考えられる。査読の結果、特集号に掲載が決まった論文は13件(昨年度は18件)であり、採択率は65%(昨年度は72%)であった。

4. おわりに

平成7年度連合大会と特集号発刊の経緯の概要を示した。このような機会を与えて下さいましたC部門編修委員会、電気学会東海支部、ご多用中にもかかわらず熱心にご査読いただいた査読者の方々、ならびに本部編修課の方々に厚くお礼申し上げます。

なお、平成8年10月14日、15日に豊田高専で開催された連合大会についても、平成10年1月号において特集号を組ませていただく予定である。会告は、学会誌平成9年1月号に掲載されており、原稿締切は平成9年4月25日である。東海地区の活動を全国に知らしめるべく、奮ってご投稿下さるようお願い申しあげる。

(平成8年11月20日受付)

The Special Issue on the 1995 Tokai-Section Joint Convention of
Institutes of Electrical Engineering, Japan.
By Shigeru Okuma (Nagoya University).